

令和４年度第１回西成特区構想エリアマネジメント協議会
こども・子育て専門部会 議事要旨

１ 日 時 令和４年６月６日(月) 午後７時から午後８時４５分まで

２ 場 所 西成区役所 ４－８会議室

３ 出席者

【有識者】

村上教授（大阪大学大学院）、永橋教授（立命館大学）

【地域メンバー】

乾委員（西成区社会福祉協議会）、莊保委員（わが町にしなり子育てネット代表）、川辺委員（ＮＰＯ法人西成チャイルド・ケアセンター代表理事）、小林委員（ＮＰＯ法人釜ヶ崎支援機構）、角田校長（天下茶屋中学校）、末綱校長（千本小学校）

【大阪市】

泉谷企画課長代理（こども青少年局）、田中指導主事、浦指導主事（教育委員会事務局）、宇野子育て支援担当課長、森田こども・教育支援担当課長代理、狩谷企画調整担当課長代理（西成区役所）

４ 議事要旨

（１） 今後のこども・子育て関連施策の展開についての意見交換

●第３期特区構想も含めて、来年度以降に実施する施策のご意見をいただきたい

【ヤングケアラーについて】

- ・委員より保育所などにすでに実施しているが、小・中学校を対象にアンケート調査を実施したいとの提案あり。
- ・保護者の了解をなしに直接子どもに聞くことは、内容により本人につらい思いをさせることや、保護者から了承もなしに勝手にするなといった批判が担任にくることも考えられる。こども自身に回答させるのはどうなのか。
- ・こども向けの調査については、子どもを守る仕組みができていないのであれば控えたほうがいいのではないか。
- ・子どもが家族の一員として家庭内でお手伝いすることも必要であり、ヤングケアラーの線引きは難しい。家族によって異なり、慎重に扱う必要がある。
- ・ヤングケアラーの調査結果については、会議の前に周知してほしい。
- ・教員向けへの任意のアンケート調査を行うことで合意。

【居場所について】

- ・家庭でも課題を抱えている子供が多い。高齢者や子どもなど誰もが集まれる居場所をつくる必要があるのではないか。子どもの声を聞くとともに、家庭の底上げも必要である。つながる場所があればサポートも行いやすい。
- ・緊急一時宿泊ができる場所をつくってほしい。校区内に1つは必要であり、里親の活用も考えられる。里親は登録数があってもほとんど見ていないのが実情。
- ・生活困窮者向けの相談会を実施したが、東京に比べると子連れの方が少なかった。つながっていないのか、支援が充足されているのかはわからない。
- ・出産してから6か月間親子が一緒にいられる場所が欲しい。
- ・こどもの後ろにいる大人の支援も必要である。そういったことにより若い人が子供を産んで住んでいき、増えてくれれば。
- ・プレーパークは現状土日のみのであるが、乳幼児を連れた母親が増えている。居場所として平日も開けてほしい。保育園の遠足などにも活用できる。

(2) 令和4年度エリマネジメント協議会 こども・子育て専門部会のスケジュール(案)について

●令和3年度のスケジュールについて説明

- ・可能であれば、次回の会議日程を決めてほしい。
→日程調整の幅をもたせて、早めに調整をさせていただく。